

# 福島県川内村における 多職種連携による 摂食嚥下ケア支援事業

小山 善哉 氏

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科  
口腔保健学分野 助教



## 1.目的

福島県川内村の摂食嚥下ケアに携わる医療介護職のスキルアップを支援し、地域の摂食嚥下障害を有する高齢者ケアの充実および高齢者の誤嚥性肺炎の発症予防を図ります。

## 2.背景

摂食嚥下障害とそのために行き起こされる誤嚥性肺炎は要介護高齢者のケアに携わる支援者にとって重要な課題です。長崎大学歯学部(口腔保健学分野)は、平成27年より、長崎県の離島地域五島市において、摂食嚥下障害を持つ高齢者ケアに携わる医療介護職の方のための摂食嚥下ケア支援事業に取り組んできました。五島市は本土と直接の航路のない2次離島を含め広域であるので、私たちは参加者を市街地の研修会場に遠隔地域から集めるのではなく、摂食嚥下ケア専門職チームが地域に向いての地域訪問型の研修会と事例相談会を3年間にわたり開催してきました。同事業は地域の支援者に好評を得て、高齢化率36.9%の五島市ですが、地域包括支援センター、地域リハビリテーション広域支援センター、老人福祉施設協議会と連携した摂食嚥下ケア地域支援のネットワーク構築は進んでいます。

一方、同口腔保健学分野は、東日本大震災での医療支援を契機に、福島第一原発周辺沿岸の福島県相双地域の医療介護職と交流があり、2017年に同地域川内村で、五島市での事業を紹介したところ好評をいただき、同村での専門職チームによる事業開催の要請を受けました。川内村は高齢化率が40.8%と極めて高く、誤嚥性肺炎発症予防のため摂食嚥下ケアの充実は急務であります。そこで、五島市での経験を活かし、五島市の摂食嚥下ケア多職種チームによる、川内村での摂食嚥下ケア支援事業の開

催を計画しました。

## 3.活動内容

(1)摂食嚥下ケア多職種専門チームによる研修会および事例相談会、(2)摂食嚥下ケアハンドブックの配布、(3)LINE等をもちいた五島市ー川内村の支援ネットワーク構築と情報交換・事例相談、(4)事前・研修会等当日・事後アンケート、(5)五島市と川内村の事業関係者医療介護職代表による運営会議

## 4.期待される効果と意義

多職種専門チームによる現場訪問型の事例対応事業なので、より具体的に高齢者ケア現場のニーズに応えることができると考えています。ハンドブック配布、LINE等による支援ネットワーク構築により広範で継続的な支援体制の充実を目指しています。相双保健福祉事務所や地域の歯科医師会の方々も注目しておられ参加されます。本事業が良きモデルプランとなり、今後の福島県相双地域での摂食嚥下ケア支援事業や支援ネットワークの充実の一助になればと考えています。

